

平成26年度 大田区立蒲田小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

大田区立蒲田小学校は、羽田空港や多くの外国籍の方々も暮らす町として国際化の進む地域にあり、平成26年度は、通常学級15学級、特別支援学級（固定）3学級、日本語学級（通級）2学級を併設している。今年度、開校135周年を迎えた伝統のある学校として、地域の方々に支えられ、保護者も学校に協力的である。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒と面談等を実施し、学習のつまずきや学習方法について、助言・支援を行う。	4:「学習中、友達の話を中心して聞こうとしていますか」の項目と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」の割合が80%以上	4	本校は児童一人一人を大切に、学力向上を図っている。課題の少ない児童にとっては、補充プリントや補習教室が負担になっている事実があり、さらに個に応じて弾力的な指導を行っていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学力向上に向けた学校の指導は評価できる。 地域にいる学力・学識をもった方々を取り入れて、地域との築いてはどうか。 どの先生も熱心に指導してくれていると思う。 児童館利用児童は、着くとすぐに宿題をする子供が多く、学習習慣が身に付いていると感じる。
		算数・数学到達度をチェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:「学習中、友達の話を中心して聞こうとしていますか」の項目と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」の割合が70%以上			
		算数・数学の補充プリントや発展プリントを配布し家庭学習を支援する。	2:「学習中、友達の話を中心して聞こうとしていますか」の項目と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」の割合が60%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	1:「学習中、友達の話を中心して聞こうとしていますか」の項目と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」の割合が60%以下			
		算数では、3～6年で習熟度別の少人数指導を実施するとともに、校内研究では全学年で「筋道を立てて考える」指導の研究に取り組む。				
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	法令などの社会のルールや学校のきまりなどを守るようとする意識を高め道徳教育を実施する。	4:「よいこと悪いことを考えて行動していますか」の割合が85%以上	3	学校生活調査結果が届くとすぐに分析し(全学級)、配慮が必要なのはどうかと考えられる児童には担任が面接を行った。重大な問題が発覚した場合にはスクールカウンセラーとも連携して見守っていくことにしている。道徳授業地区公開講座の保護者出席率は例年低く、運動会や学芸会のような関心はないことが分かっている。もっと家庭と連携した道徳教育を実施するために、これまで学校・学年通信で周知を図っていたが、今後は保護者会でも伝えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育への熱意を感じる。重大な問題がおきた時だけではなく、スクールカウンセラー等の活用をもっと積極的に考えてほしい。 教員の努力により生活・行動面がよくなった子供がいる。 蒲田小学校の子供は、子供らしく正直な子のイメージが強くある。 道徳授業地区公開講座に出席せず、内容を誤解している保護者も少なくないので、道徳の意義の大切さを伝え続けて、保護者の意識改革と誤ったことを伝えないようにするムードをつくらなければならないと思う。
		学校と家庭、地域が連携し、道徳授業地区公開講座の活性化を図る。	3:「よいこと悪いことを考えて行動していますか」の割合が75%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果等をもとに個人面談等を実施する。	2:「よいこと悪いことを考えて行動していますか」の割合が60%以上			
		いじめ・問題行動の未然防止のための取組を実施する。	1:「よいこと悪いことを考えて行動していますか」の割合が60%未満			
		不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
		都の人権尊重教育推進校として、「外国人」「障害者」「同和問題」に関して、自分の大切さとともに、他人を大切に育てる児童を育成する。				
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を高めて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	早寝・早起き・朝ごはん月間の取組を実施する。	4:新体力テストの総合評価がC以上の児童が70%以上	新体力テストの結果 2	早寝・早起き・朝ごはん週間アンケートの結果から、朝ごはんはほとんどの児童が食べていることが分かっている。新体力テストの結果を重く受け止め、休み時間に室内で過ごすことを取りやめ、外遊びの推奨を徹底していく。	<ul style="list-style-type: none"> 朝遊びを含めて本校はすばらしいサポートが整っていると思う。児童は、遊びを通じて体で覚える学びをしてほしい。 新体力テストの結果はよくなかったが、朝遊びに来る児童を見る限り、体力や運動能力はあると思う。 体力向上に向けたプログラムを考え取り入れていく必要があると感じる。
		睡眠時間を8時間以上、かつ朝食を食べる子供の指導を徹底する。	3:新体力テストの総合評価がC以上の児童が60%以上			
		体力向上全体計画に基づいた指導を実践する。	2:新体力テストの総合評価C以上の児童が50%以上			
		1学期一鉄棒、2学期一持久走、3学期一縄跳びを体力向上の取組として取り組む。	1:新体力テストの総合評価がC以上の児童が50%未満			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に向けた取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「学習環境が整っている」の割合が、80%以上	4	ICT機器の活用は実は教員間でもニーズが高い。しかし電子黒板、大型モニターが各1台しかなく、しかも3階にあるため他の階の教室では活用しづらいのが現状である。比較的安価な書画カメラを今後計画的に購入していきたい、各学年に割り振ることができればさらに活用度は上がると考える。改善プランが活用できるかどうかは、経験のある教員による指導が不可欠である。毎週設定している「学年会」の意味を再度確認し、主任教諭には特に若手の育成に力を入れるよう指導していく。	<ul style="list-style-type: none"> ICTの利用の仕方は再考する必要があると思う。大型モニターをフロアに移動するエレベーター等はないので、本来高輝度プロジェクターを検討すべきだと思う。 理想を問わずに、現実を見ながら背伸びをしない教育環境を願う。 ホームページが毎日更新できない状況が残念である。 若手とベテランの教員がフランクにディスカッションし合える雰囲気を保ち、協力体制を取りながら、よりよい教育環境が整うことを期待する。
		各種研究発表会や授業改善セミナー等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	3:「学習環境が整っている」の割合が、70%以上			
		ICT機器を活用した授業を実施する。	2:「学習環境が整っている」の割合が、60%以上			
		特別支援教育を充実させ、校内委員会等を実施する。	1:「学習環境が整っている」の割合が、60%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。				
		「学校からのたよりやホームページの情報で学校の様子がよくわかる」ように伝えている。				
地域と共に歩む学校づくり	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくり出す。	教育目標、学校経営計画、学校経営方針をホームページに公開する。	4:学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の方の割合が90%以上	4	学校は今後も必要な情報を各種通信とHPで公開していく。今年度は台風による緊急連絡が2度あった。緊急メールの登録率を上げて、万一のときの連絡をより確かにしていく。そのために次年度当初の保護者会(全体会、各教室とも)で利便性と必要性を伝えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの情報発信を受けてもらう体勢が整ったと思う。 地域と密接に動いて損は無と思う。協力しあえる学校こそ、これからの姿だと思う。 今年度は、「開校135周年」に招待していただき、地域との繋がりの強さを改めて感じた。 学校のホームページを積極的に利用し、常に新しい情報を発信していくことはよいと思う。 地域と共に歩む学校として、教員も子供たちももう少しあいきつができるとよい。
		情報を積極的に公開するとともに、学校ホームページの充実を図る。	3:学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の方の割合が70%以上			
		地域連絡協議会において自己評価に対する評価を行い、その結果をホームページで公開する。	2:学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の方の割合が60%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践した。	1:学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の方の割合が60%未満			
		町会、区役所(防災課)と連携して会議を実施し、「学校防災活動拠点事業」のマニュアルの改定、訓練に取り組む。				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○「学校関係者評価の」評価は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:改善が必要である D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。